

## クリスマスメッセージ「いる余地のない客間」

統括主任 飯塚拓也 (竜ヶ崎教会)

ところが、彼らがベツレヘムに滞在している間に、マリヤは月が満ちて、初子を産み、布にくるんで、飼葉おけの中に寝かせた。客間には彼らのいる余地がなかったからである。  
(ルカによる福音書 2 章 6～7 節 口語訳)

クリスマスおめでとうございます！

あの震災より 2 回目の冬を迎えました。夏の猛暑とはうって変わって、今年の冬は寒さが厳しいと聞きます。今なお仮設住宅や避難所に暮らしていらっしゃる方々の生活を思うと胸が苦しくなります。明るく温かい光が差し込むことを祈らずにはおれません。少しでも温かな暮らしが、嬉しい日々があることを願わずにはおれないのです。

私にとって最も印象深いクリスマスメッセージは、今から 30 年前のこと、在校していた農村伝道神学校のクリスマス礼拝で、当時在日大韓基督教会川崎教会牧師であられた李仁夏先生よりいただいたメッセージです。

李先生は、「客間には彼らのいる余地がなかった」(ルカ 2 章 7 節)をもとに、在日韓国人朝鮮人について語ってくださいました。そこでのテーマは「民族差別」でした。指紋押捺問題、教育差別、就職差別、結婚差別と、日本で暮らしているにも関わらず「在日」であるがゆえに受ける様々な差別を受けることは、「この国に自分たちのいる余地はあるのだろうか」という根源的な問いに結びつきます。そんな中で出会ったみ言葉「客間には彼らのいる余地がなかった」は、「これこそまさに私たちへの言葉だ！」という深い感動を与えるものだったと、李先生はお話くださいました。新共同訳では「彼らの泊まる場所がなかった」となっていますが、この「場所」とは単なる場所ではなく「居場所」という強い意味があると思います。

この、「居場所」を、今必死の思いで求めていらっしゃる方々の多いことを思うのです。

特に、東日本大震災によって被災し、自宅を失いまた追われて暮らさざるをえない方々のことを思うのです。

竜ヶ崎幼稚園では 2012 年 4 月より一人の被災園児を受け入れました。地震発生より 1 年以上たったの入園です。福島第 1 原発の事故によって、福島県南相馬市から竜ヶ崎に避難されてきたのですが、一年間は市が提供した住宅で母子二人で暮らしていらっしゃいました。その理由は経済的なことでした。ご事情によって行政上は「自主避難」扱いとされ、公的な支援がほとんどない状態にありました。見かねたボランティアグループが市と交渉をしますがちががあかず、せめて子どもだけでもと幼稚園を訪ねてくださいました。お話しを伺って深く考えさせられたことは「避難格差」でした。とても残念なことですが、ここにも差別がありました。本来同じ避難者であるはずが、避難の際の戸籍の場所によって行政の扱いは違ってきます。また、経済的に余裕のある方は自分で新たな住まいを捜すことができますが、そうではない方は生活の選択肢が極端に少ないのです。

主のご降誕を祝うこのときに、「居場所を求めて訪ね歩くヨセフとマリア」を思います。そして、その居場所を求め歩く家庭に主イエスが生まれたことに意味を感じるのです。今、居場所を求めて歩んでおられる方々と共に歩んでこそ、真のクリスマスなのではないかと思うのです。関東教区の支援委員会では、年が明けた 2013 年も継続的にボランティア派遣に取り組んでまいります。これは、「私たちも共に歩ませていただく旅」なのだと思います。

ぜひ、ボランティア派遣を覚え祈ってくださり、派遣にご協力をお願いいたします。

## ☆冬期ボランティア募集☆

関東教区では今夏から、仙台と石巻で被災者支援センター・エマオが展開するボランティア活動への継続的なワーカーの派遣を企画してきました。この間、教区内の教会・伝道所に連なる皆さまからのお支えにより、7月・10月・11月にワーカーを派遣することができました。関東教区被災支援委員会は、この活動を、より実りの多いものとするために、さらに継続的に取り組み、被災地に寄り添う歩みにしたいと願っております。今回は冬のボランティアの募集をします。期間は2013年1月～3月までです。寒さがきびしく、ワーカーも少なくなりがちな時期ですが、たくさんの方のご参加をお待ちしております。

### 《期間》

1月21日（月）～25日（金）・2月18日（月）～22日（金）・

3月18日（月）～22日（金）

このうち3月については、各方面からのボランティア参加がふえる傾向の時期であるため、予定を変更させていただくことがあるかもしれません。

上記期間内の参加については、（全日程参加が望ましいですが）一日のみの参加も可能です。これ以外の日程での参加を希望される方は、エマオに直接連絡の上、参加希望日数や人数など諸条件についてご相談ください。エマオでの受け入れが可能な際には、教区被災支援委員会にご連絡くだされば、教区からのボランティアということで、交通費補助の対象とすることができます。

《交通費》普通乗車券による往復運賃分を支給します（新幹線などの特急料金は含まれませんのでご注意ください）。

### 《ワークの内容》

- 被災の現地へ赴いての作業：被災地のお宅での農作業（田畑の復旧作業）・片付け・備品や什器の修繕・傾聴など
- 調理ボランティア：ワーカーやスタッフの方々のために夕食の準備をします。チームでの作業になりますので、こちらに関しては3名以上での申し込みをお願いいたします。またスタッフやワーカーのための昼食（お弁当）を用意の上、現地に同行し、被災地の方々とお弁当を食べながら交流をはかる「お弁当ボランティア」もあります。

《宿泊》 女性は青葉荘教会内のお部屋 男性は長刀町アネックス105号室（両方ともエマオに隣接しています）。一泊につき300円の献金をお願いします。

《その他》参加される方にはボランティア保険（天災A型）への加入をお願いしております。詳しくはお住まいの地域の社会福祉協議会にご相談ください。初日は午前7時45分からのオリエンテーションに出席していただきます。このため、現地到着の時刻によっては前泊となることもありますのでご了承ください（日曜日からの前泊は可能です）。

その他、ご不明な点についてのご質問は被災支援委員会・小林（取手伝道所 090-3529-5140 mail@torideyochien.jp）までお寄せください。

また、関東教区被災支援委員会では、東日本大震災での被災支援をするための、上記以外の様々なボランティアについても随時派遣を検討していきます。こちらも関心をお持ちの方は委員会までお問い合わせください。